

「河川工学(土木・環境系コアテキストシリーズ) 正誤表

頁	行・図・式	誤	正
2	6	河川によって地形が浸食	地表面が浸食
2	下から3	形成する河床	形成される河床
3	図1.2	川によって地形が浸食	地表面が浸食
3	下から4	適切に使用する	適切に利用する
8	図2.2(b)	二次元モデル	平面二次元モデル
9	9	一方向のみの	縦断方向のみの
9	下から2	質量保存則を考慮	質量保存則で三次元性を考慮
11	式(2.8)	$u_s^2 = \frac{n_s^2 g}{R^{\frac{1}{3}}} (u^2 + v^2)$	$u_s^2 = \frac{n_s^2 g}{R_w^{\frac{1}{3}}} (u^2 + v^2)$
11	下から3	河川近傍流速は、水深平均流速の～	河川近傍流速は、水表面の流速や水深平均流速の～
12	式(2.9)	$v_s =$	$v_b =$
13	上から2	式(2.6)および式(2.7)によって	式(2.9)および式(2.10)によって
15	下から6	流域の地形特性に	流域の地形特性や降雨特性に
17	式(2.20)	$\frac{\partial}{\partial x} \left(\frac{1}{n_w} h^{\frac{5}{2}} I^{\frac{1}{2}} \right) =$	$\frac{\partial}{\partial x} \left(\frac{1}{n_w} h^{\frac{5}{2}} I^{\frac{1}{2}} \right) =$
23	式(2.42)	$-I(1-\epsilon) \frac{dh_{fw}}{dx} + \dots$	$-I(1-\epsilon) \frac{dh_{fw}}{dx} + \dots$
25	6～7	隆起とともに津波が	隆起とともに長波の1つである津波が
27	4	津波の水衝部とは洪水の水衝部とは	津波の水衝部と洪水の水衝部は
35	7	図2.22に示す。	図2.22に示す。ここで Δt は計算の時間ステップ(time step), Δx は空間ステップである。
45	下から3	浸食が	縦浸食が
47	3	複列砂州(multiple row bar),	複列砂州(double row bar),
55	6	一様粒径として取り扱っている。	一様粒径として土砂を取り扱っている。
61	式(3.13)	$B_w \frac{\partial c_s E_b f_{sk}}{\partial t} + \dots B_w w_{\beta} (c_{sdek} - c_{sdk}) = 0$	$B_w \frac{\partial \bar{c}_s E_b f_{sk}}{\partial t} + \dots B_w w_{\beta} (\bar{c}_{sdek} - \bar{c}_{sdk}) = 0$
61	下から3	c_s は河床位,	c_s は流水域の河床位,
61	下から1	c_s は粒径別の掃流砂濃度である,	c_s は掃流砂濃度である。 なお, $\bar{\quad}$ は, 断面平均値を示す,
62	図3.22(b)	$t = t + \Delta t$ $t = t$	$t + \Delta t$ t
62	7	断面平均掃流砂濃度 c_{sk}	断面平均掃流砂濃度 \bar{c}_{sk}
62	式(3.15)	$\frac{\partial c_{sk}}{\partial t} + \frac{\partial Q_{sk}}{\partial x} = AD \frac{\partial^2 c_{sk}}{\partial x^2} + B_w w_{\beta} (c_{sdek} - c_{sdk})$	$\frac{\partial \bar{c}_{sk}}{\partial t} + \frac{\partial \bar{Q}_{sk}}{\partial x} = AD \frac{\partial^2 \bar{c}_{sk}}{\partial x^2} + B_w w_{\beta} (\bar{c}_{sdek} - \bar{c}_{sdk})$
62	式(3.16)	$B_w \frac{\partial (c_s E_b)}{\partial t} + \dots B_w w_{\beta} (c_{sdek} - c_{sdk})$	$B_w \frac{\partial (\bar{c}_s E_b)}{\partial t} + \dots B_w w_{\beta} (\bar{c}_{sdek} - \bar{c}_{sdk})$
63	式(3.17)	$(1-\lambda) \frac{\partial c_b}{\partial t} + \dots$	$\frac{\partial c_b E_b}{\partial t} + (1-\lambda) \frac{\partial c_b}{\partial t} + \dots$
73	10	分布型流出モデルが開発されている。	分布型流出モデルとして利用されている。
75	下から3	2012年7月に熊本県阿蘇地区で	2013年10月に伊豆大島で
80	3	岐阜県高山市で発生	焼岳で発生
80	図4.8	岐阜県高山市で発生した土石流	焼岳の土石流
89	式(4.30)	分母: Δt	T_i
89	下から3	Δt は数値解析に用いたタイムステップ(time step)である。	T_i は崩土の河川への流入時間である。
89	コラム 下から1	影響を考慮すること	イベントを考慮すること
90	下から11	実施に至っていない事例	砂利採取となっていない事例
90	下から3	砂利採取である。	河床土砂の採取である。
124	11	河道内の動物が,	河道内の生物が,
130	下から1	事例が多い。	事例が多く, 事前の計画と設計に注意が必要である。
137	下から4	環境保全を目的とする	自然環境の保全を目的とする
156	図8.21	湾曲床固め工	堰

①

最新の正誤表がコロナ社ホームページにある場合がございます。
下記URLにアクセスして[キーワード検索]に書名を入力して下さい。
<http://www.coronasha.co.jp>